
僕の逝き方

喜久井克将

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の逝き方

【Nコード】

N7816X

【作者名】

喜久井克将

【あらすじ】

とある高校生、葉霧隆輝は、学校に行き、友達と触れ合い、楽しい暮らしを過ごしていた彼を襲う悲しい出来事……。短い彼の人生をつづる一作。

はじめに・・・(前書き)

新人の喜久井克将です。

これは正真正銘初めての投稿になります。

なにぶん文学力がないと思いますがよろしくお願いします。

はじめに・・・

人間にはそれぞれいろんな逝き方があると思う。ゆっくり時間をかけたり、一瞬だったたり、たくさんの人に囲まれながらとか、一人ひっそり気付かれないとか・・・喜び、悲しみ、怒り、そんな感情を抱きながら逝く人もいるだろう。

僕もそのうちの一人、高校生にして一生を終えた人間、はぎりりゆうき葉霧隆輝。

この僕がどのようにして生きてき、どのように死んで逝ったかをこの場を借りて教えていこうと思う。興味の無い、または面倒くさいと思う方はどうぞイってください。

はじめに・・・(後書き)

次を書くのに少々期間が空くと思います。すみません。

第一（改）

キンコンカンコン……高校のSHRの終わりの鐘の音が校内を響かせる。

「終わったー！さあて、今日は何するかな」

俺、葉霧隆輝はぎりりゅうきは高校の2年、自分で言うのはなんだが、いでたちや学力は平均ぐらい、部活は一応科学部（ほぼ幽霊部員状態）に入っていて、クラスでも目立たず友達は少ないほうだと思う。

「おいリュウ！今日帰り〈例〉の場所行かないか？」

荷物をバックに入れている途中背後から話しかけてきたのは数少ない友達かしわらそらの1人、柏原空だ。

彼はクラスでも中心的存在で文武両道、ダンス部のエースでもあり、俺とは全く対照的存在だ……一部を除いては。

俺は後ろを振り向きながらバックを肩に担ぎ、

「いいけど……空、部活は？もうすぐ大会なんだろう？」

「今日はオフにしたんだ！たまには友人との友情を育むのもいいだろう♪」

全く迷いのない綺麗な笑顔で思わず嘘だ！俺はそう思ったが今日の日にちを見てその疑いはなくなった。

「10月20日か……わかった。じゃあ行くか」

俺は空の誘いに乗り、〈例〉の場所に向かうため靴に履き替え、正門からダッシュで俺たちがいう〈例〉の場所にむかった。

目的地に着くまで俺の通う高校を説明しよう。

佐々焼山高校ささやきやま、俺たちの地域では中の上ぐらいの学力のところで毎年そこそ良い大学へと生徒を輩出させていた。これだと普通の高校じゃんと思った人、この高校には唯一と言っていいほど特別のところに建っている。「穴」、山手にあるこの学校の裏には下が見

えなくなるぐらいのとても大きな穴のある異常のところに建っている。穴は半径50メートルはあると思う。普段はその穴の周りには高い柵が張ってあり入れなくなっている。ほかにこれといったことはないのでそろそろ〈例〉ところに着くだろう。

学校を出た俺たち〈例〉の場所で楽しんでいた。

「いらっしやいませ、主人さま♪」

「萌え萌えじゃんけんポン・・・やったあ勝っちゃった!」

周りはまさにメイドだらけ! いわゆるメイド喫茶というやつだ。可愛い女の子か黒やオレンジ、ピンクなど個性に合わせたメイド服を着ている。そう、ここはいわゆるメイド喫茶というところだ。

俺と空との共通点それは極度の「ヲタク」ということ! 特に空はネット界でも一目置かれている存在で密かに俺はこいつの事を神と呼んでいることはあえて言わないでおこう・・・

で、ここに来たのは毎月20日だけ行われるイベント「メイドじゃんけん大会」を見に来たのだ。

「萌え・・・?」

空が鼻の下をのぼしながらじゃんけんにいそしんでいるメイドさんを凝視している。おれはというと

「(この後アニメッコに行って新刊出てるか確認してそのあとCD、DVDも見とくか・・・)」

と全くメイドに気にしないような感じで今後の予定を考えていた。

「じゃあまたな!」

メイド喫茶を出た後、俺の予定どおりに事が進み解散することになった。

「おん、また明日。」

俺はさっき買ったばかりの新刊に目を落としながら適当に返事をした・・・明日あのようにになるとは二人とも予想することもなく。

第一 (改) (後書き)

まだ女キャラ出てきてないけど不満ありますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7816x/>

僕の逝き方

2011年11月14日06時23分発行